



ロベルト酒井の

南十字の空から

ブラジル通信 No. 17

平成 26 年 9 月 13 日～9 月 18 日

(平成 26 年度 第 2 号)

発行者 豊橋市教育委員会

酒井 憲一



校舎内を避難する生徒たち

ブラジルの学校の「避難訓練」

昨年の本通信 15 号で掲載した「日本の避難訓練の紹介」を受けて、ブラジルの学校の避難訓練を視察しました。

視察した学校は、「連邦警察が運営する中高一貫校」で、日本の警察学校とは違います。ただ、連邦警察が管轄するので、警察学校らしく整列等は厳しく教育されています。

訓練は、火災を想定して教室から広い場所へ避難するものでした。写真を見ると日本の避難訓練と変わらないように見えますが、実際 訓練開始のベルが鳴ると「ヤッホー」という歓声が上がり、大きな声で話しながら避難していました。

私が担当者に、「日本では『話さない』ことを約束事として避難している。理由は、教師や放送の指示が伝わらなかったり、パニックでデマが流れたりすることを防ぐためです。」と伝えると、「ブラジル人は話すことが文化の一つ。日本人はあまり話さず、笑顔がない。ブラジル人に『話すな』と言うなら、日本人に『いつも笑っている！』と言うのと同じだ！」と反論されました。しかし、この後は、「お互い自国の文化・習慣ののった教育が必要ですね。」と笑顔で(!?)理解し合いました。(仲良しでしたよ)



整列して、全員点呼



ABD平松会長と協議

「クリチバ帰国者支援システム」の始動に向けて

昨年の本通信 14 号で紹介した「クリチバ帰国者支援システム」は、3 者がお互いに合意しただけであって、実際に活動を開始するところまで至りませんでした。そこで、パラナ州教育局をはじめ、ABD (出稼ぎ協会) 平松会長、パラナ連邦大学現代言語学部ルイス教授とそれぞれ協議し、以下のことが確認されました。

- | | |
|-------|---|
| 州教育局 | 帰国児童生徒の把握 学校への支援システムの周知
サポートの場所 (学校) の提供 |
| A B D | 保護者サポート 日系クラブとの連携
州議会との連携 スポンサー企業の開拓 |
| 連邦大学 | 事務局 サポート活動 心理学部との連携
帰国者の会のパンフレット作成と広報 |



ルイス教授と協議

ロベルト酒井の休日はどうスルー ～サッカー観戦①～



改修された ATLETICO-PR のスタジアム



スタジアム正面のワールドカップの看板

ブラジルの文化体験として(?)、ブラジルのプロサッカーリーグ(1部)の試合を観戦しました。

クリチバ市のサッカーチーム「ATLETICO-PR」のホームスタジアムは、FIFA ワールドカップの会場になるために改修され、そこで観戦しました。さすが、ワールドカップの会場になるだけあって、見やすく、きれいなスタジアムでした。数年のうちにドーム型にし、バレーボールやコンサートの会場としても使用するそうです。

なお、クリチバ市には1部リーグのチームが2つあり、もう一つは昨年のブラジル通信14号に掲載した「CORITIBA-FC(通称: COXA)」です。COXAの観戦については、次号で紹介します。(サッカーばかり見ているのかと思わないでください。異文化体験です!)



通訳の方！
スタジアムに案内してくれる方を紹介してください、ありがとうございました！

ロベルト酒井の「こんな時どうスルー？」

前号は「ビタミン摂取のために何をしていますでしょうか？」という問題でした。答えは「② 100%ジュースを飲む」でした。野菜や果物を買ってきて「かぶりつく」のもいいのですが、面倒で…。科学的に証明されていませんが、インドネシアでは「デング熱にはグアバが効く」と言われ、私もインドネシア滞在中、毎朝グアバ100%ジュースを飲んでいました。今年は日本でデング熱の発症例がありました。今年、ブラジルは毎年発症していて、右のポスターのように注意を促しています。そこで、グアバ100%ジュースを毎日飲むことにしました。



また、ブラジルではジュースといえば「100%が当然」という感じで、どの店もしぼりたてを提供します。私は、「果物が豊富な国なので、せっかくなら日本で高価な果物を味わおう」と思い、グアバにしました。ちなみにブラジル人は、マテ茶を飲んでコレステロールを抑えています。

それでは第17問。別掲で、私はサッカー観戦をしましたが、なんと通常の半額でチケットを購入できました。どうやって半額にしたでしょう？

答えは次号で！

- ① 日本のお土産を渡した ② 外国人公用特別ビザによる半額 ③ 教員半額制度